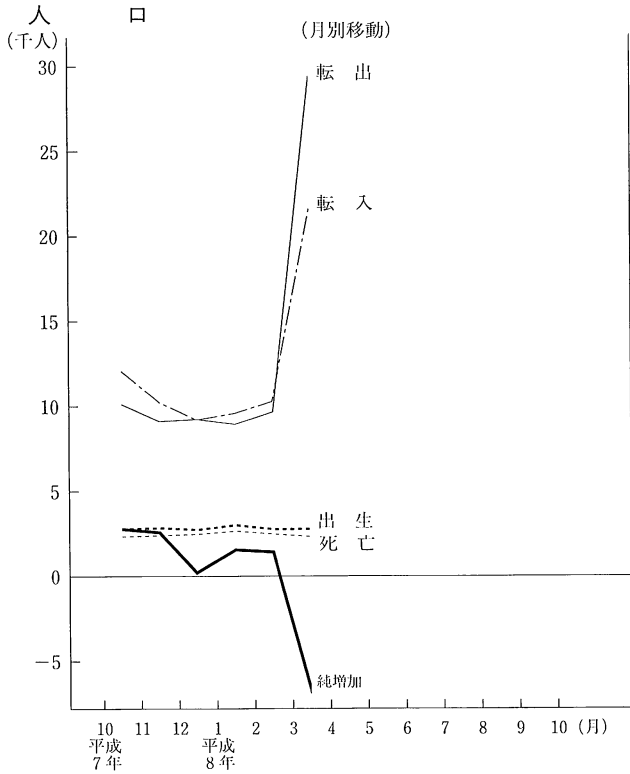
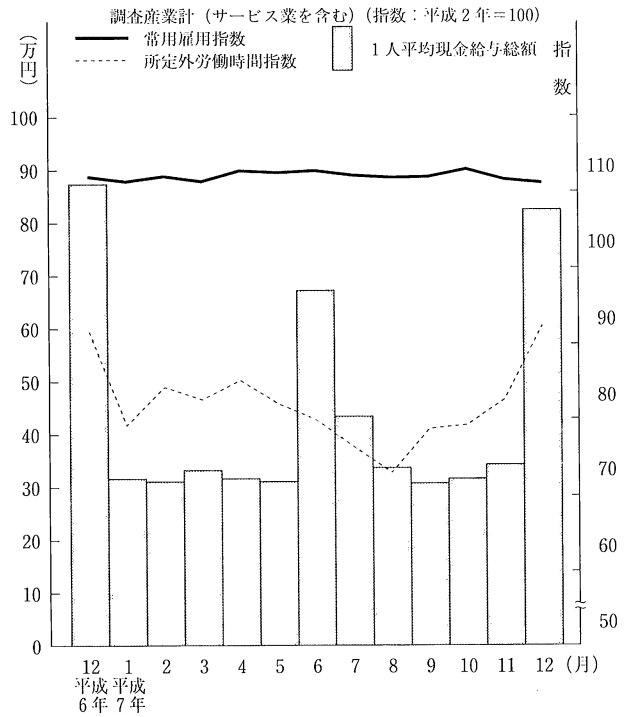


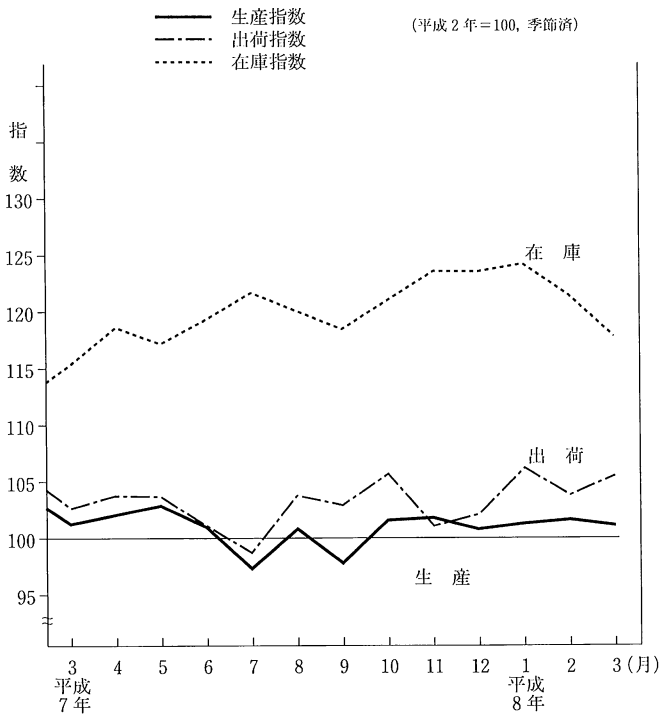
今月の主な動き



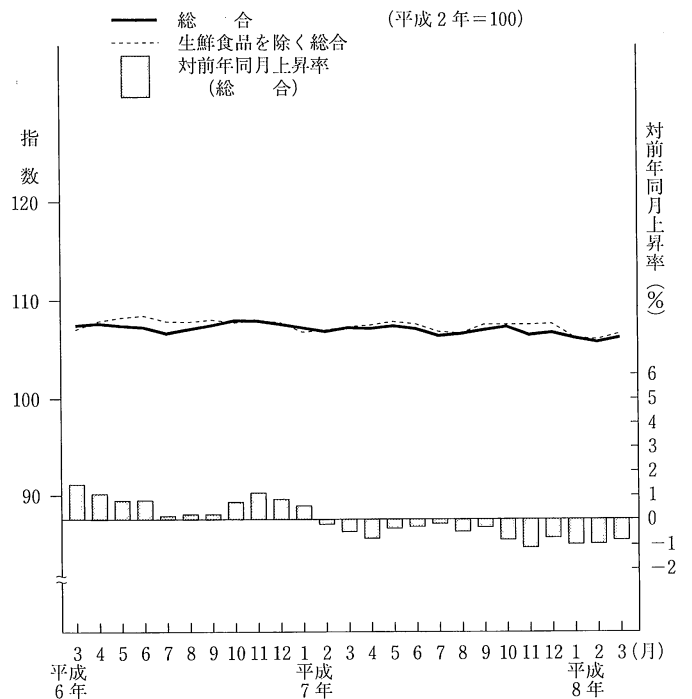
賃金・労働時間・雇用



鉱工業指数 (生産・出荷・在庫)



消費者物価指数



主な動きのあらまし……………企画部統計課

■人口（4月1日）

本県の人口は3月中に7,386人減少し、4月1日現在で、2,954,371人（男1,475,140人、女1,479,231人）となった。

内訳は、自然動態で、445人（出生2,207人、死亡1,762人）増加し、社会動態で、7,831人（転入21,311人、転出29,142人）減少した。前年同月と比べると3,002人（0.1%）の増

加である。

市町村別では、増加が4市18町村、減少が16市45町村、増減なしが2村である。

世帯数についても3月中に2,004世帯減少し、924,988世帯となった。

■賃金・労働時間・雇用（12月）

1. 平均賃金の推移

12月の現金給与総額は、調査産業計で821,860円、対前年同月比5.7%減、このうち、きまって支給する給与は305,132円、対前年同月比もちあいであった。また、このうち、所定内給与は275,232円、対前年同月比0.3%減であり、超過労働給与は29,900円、対前年同月比3.3%増であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、対前年同月比4.5%減であった。

※この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。平成8年1月分の速報値は、平成8年抽出替えに伴うギャップを修正した後、公表の予定です。

2. 労働時間

12月の総実労働時間は、調査産業計で165.3時間、対前年同月比0.5%増であった。このうち、所定内労働時間は149.4時間、対前年同月比0.5%増、所定外労働時間は、15.9時間、対前年同月比もちあいであった。

3. 雇用の動き

12月の雇用の動きを常用雇用指数によってみると、対前年同月比1.2%減であった。

■鉱工業指数〈生産・出荷・在庫〉（3月）

本県における平成8年3月の“鉱工業指数”（平成2年＝100）は、季節調整済指数で、生産が100.9、出荷が104.9、在庫が118.0で、前月比は、生産が0.5%の低下、出荷が1.2%の上昇、在庫が2.7%の低下であった。前年同月比（原指数）は、生産が0.4%の低下、出荷が2.3%の上昇、在庫が2.5%の上昇であった。

業種別に前月比をみると、生産では、精密機械工業、金属製品工業、一般機械工業等が上昇し、鉄鋼業、その他工業、非鉄金属工業等が低下した。出荷では、一般機械工業、

精密機械工業、繊維工業等が上昇し、鉱業、石油・石炭製品工業、非鉄金属工業等が低下した。在庫では、石油・石炭製品工業、鉱業、非鉄金属工業等が上昇し、輸送機械、精密機械工業、その他工業等が低下した。

財別にみると、生産では、その他用生産財、資本財が上昇し、耐久消費財等が低下した。出荷では、資本財、耐久消費財が上昇し、その他用生産財、鉱工業用生産財等が低下した。在庫では、その他用生産財、建設財が上昇し、非耐久消費財、耐久消費財等が低下した。

■消費者物価指数（3月）

平成8年3月の茨城県消費者物価指数（県平均）は、総合で106.2（平成2年＝100）となり、前月比0.4%の上昇、前年同月比0.8%の下落となった。

今月の上がった主な項目……衣料9.5%、保健医療用品・器具1.1%、魚介類1.0%

今月の下がった主な項目……野菜・海草3.4%、調理食品1.5%

生鮮食品を除く総合は106.6となり、前年比0.5%の上昇、前年同月比0.6%の下落であった。

■費目別指数

（平成2年＝100）

区 分	指数	上昇率 (%)		区 分	指数	上昇率 (%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総 合	106.2	0.4	△0.8	保 健 医 療	103.2	0.2	0.5
食 料	104.3	△0.3	△2.2	交 通 通 信	98.7	0.3	△0.9
住 居	118.1	0.7	1.6	教 育	116.8	0.0	2.5
光熱・水道	101.3	0.0	△1.2	教 養 娯 楽	107.5	△0.2	△1.6
家具・家事用品	94.5	△0.4	△2.6	諸 雑 費	105.3	0.2	0.3
被服及び履物	107.4	4.5	△0.8	生鮮食品を除く総合	106.6	0.5	△0.6